

# 中央区内景气动向调查

平成28年12月调查结果

平成29年1月20日

中央区

— 総 括 —

平成 28 年 12 月の動き

中央区内における 12 月の現状判断D I は合計で 50.0 と、前回調査から 0.5 ポイント上昇している。景気の先行き判断D I は合計で 47.0 と前回調査から 2.5 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断D I、先行き判断D I（合計）

(D I)	平成28年			前回調査 からの変化
	8月	10月	12月	
合計				
現状判断D I	42.3	49.5	50.0	(0.5)
先行き判断D I	51.5	49.5	47.0	(-2.5)

## 目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

## 調査の概要

### 1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

### 2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

### 3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

### 4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 28 年 12 月調査の調査票発送は 12 月 7 日（水）、回答期限は 12 月 15 日（木）である。

### 5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

### 6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 50 名、有効回答率は 100.0%であった。

### 7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	(良い)	(やや良い)	(どちらともいえない)	(やや悪い)	(悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0



## 2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断D Iは合計で 47.0 と前回調査から 2.5 ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連D Iは 46.0 と、前回調査から 5.0 ポイント低下し、企業動向関連D Iは 48.0 と、前回調査と変わらず横ばいである。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が 16.0 ポイント増加し、「やや良くなる」と回答した人の割合が 10.0 ポイント減少した。

図表 2－1 各分野における景気の先行き判断D Iの推移表

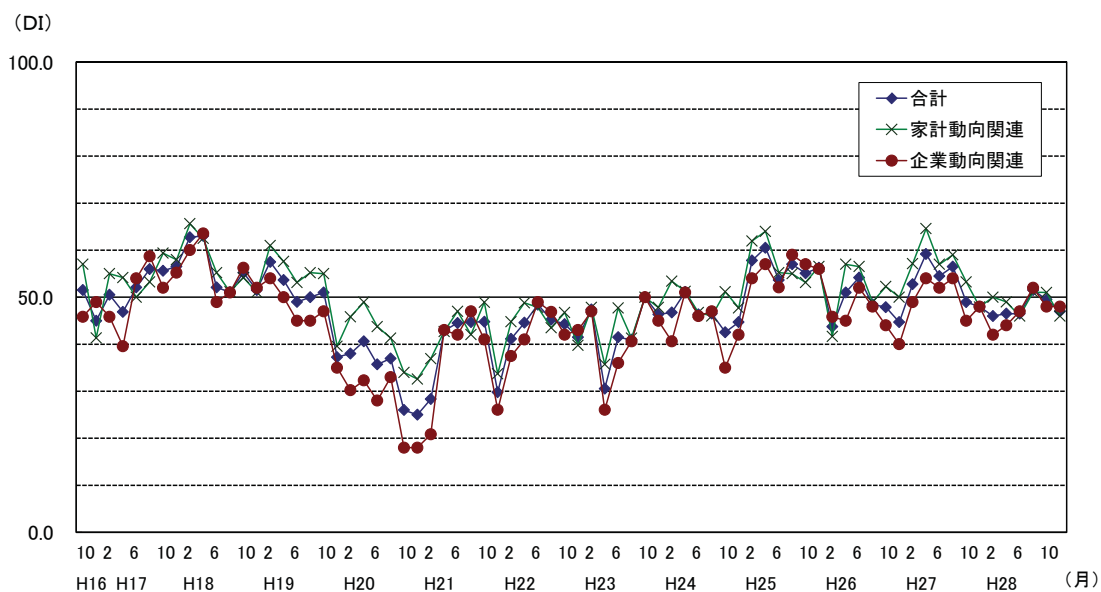
(D I)	平成28年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	51.5	49.5	47.0	(-2.5)
家計動向関連	51.0	51.0	46.0	(-5.0)
小売関連	52.1	44.2	44.2	(0.0)
飲食関連	—	—	—	(—)
サービス関連	50.0	57.1	50.0	(-7.1)
住宅関連	—	—	—	(—)
企業動向関連	52.0	48.0	48.0	(0.0)
製造業	37.5	45.8	54.2	(8.4)
非製造業	56.6	48.7	46.1	(-2.6)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表 2－2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成28年	8	2.0%	22.4%	55.1%	20.4%	0.0%
	10	0.0%	22.0%	62.0%	8.0%	8.0%
	12	2.0%	12.0%	60.0%	24.0%	2.0%
(変化幅)		(2.0)	(-10.0)	(-2.0)	(16.0)	(-6.0)

図表 2－3 各分野における景気の先行き判断D Iの推移



### 3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気の水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3－1 各分野における景気の現状水準判断DIの推移

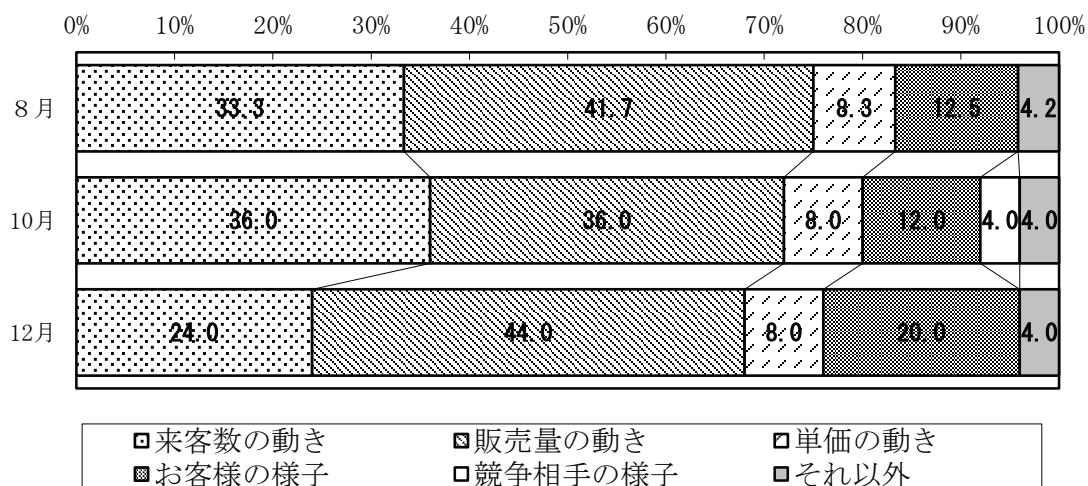
(DI)	平成28年		
	8月	10月	12月
合計	41.3	41.5	46.0
家計動向関連	35.4	35.0	47.0
小売関連	31.3	28.8	40.4
飲食関連	—	—	—
サービス関連	46.4	46.4	50.0
住宅関連	—	—	—
企業動向関連	47.0	48.0	45.0
製造業	50.0	33.3	37.5
非製造業	46.1	52.6	47.4

（備考）家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

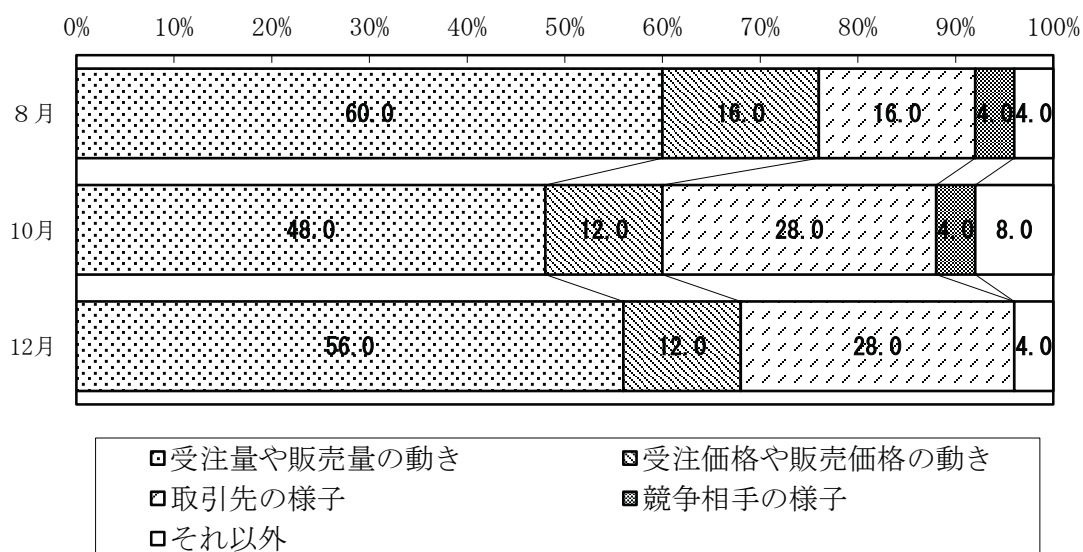
（注）景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気の水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

## 4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

### 家計動向関連



### 企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。  
割合が0%の場合、数値は表記していない。



## 4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなる	高級レストラン (副店長)	単価の動き	・12月の予約、フリーの来店客が増えている。予約は前年よりも良い。	
		やや良くなっている	一般小売店〔文具〕 (販売担当)	単価の動き	・米国の大統領選後に株価が一時下がったが、その後値上がりしている。
			百貨店 (広報担当)	販売量の動き	・冬物衣料、手袋やマフラー等雑貨の動きが目立っている。本格的に寒くなったことで、実需が顕在化してきている。
			衣料品専門店 (店長)	販売量の動き	・売上を前年比で見ると、特に土日祝日の数字が上がってきている。
	変わらない	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・3か月前と比べ、観光客、ファミリーがあまり来てくれない。	
		一般小売店〔食品〕 (店長)	お客様の様子	・3か月前からの経緯をみると、10日ほど前まではどこか下向きな雰囲気が感じられたが、最近はやや明るさを感じられるようになってきている。	
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・気温が下がり、防寒衣料の売上は好調に推移しているものの、それが景気の回復であるとは断定できない。	
		百貨店 (総務担当)	販売量の動き	・気温の低下に伴い、コートやマフラーなどの防寒アイテムが好調に推移している一方、紳士服、子供服の売上が伸び悩んでいるため、全体としては前年の実績を若干上回っている。	
		スーパー (店長)	販売量の動き	・1人当たりの販売点数が伸びていない。やや低単価傾向になっている。	
		スーパー (店長)	販売量の動き	・青果物の相場高により売上の上がっている部門もあるが、各カテゴリー共に総販売数、来客数、1人当たりの買上点数の前年割れが続いている。	
		高級レストラン (経営者)	お客様の様子	・今年の傾向として、ランチタイムは女性客が増加しており、平均の35～45%程度である。ディナータイムは法人の接待利用客が75%強で変化はない。昼夜共に客との会話から景気動向の情報を得ている。	
	やや悪くなっている	通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・年末に入り、多少販売数が伸びるかと思われたが、予想に反して減少している。	
		衣料品専門店 (店長)	来客数の動き	・訪日外国人客、日本人客共に前年比で90%と減少している。イルミネーションが点灯し、街はクリスマスの雰囲気であるが、夕方5時以降の来客数も減少している。	
		都市型ホテル (経営者)	来客数の動き	・12月に入り出張や旅行が減っているようである。訪日外国人客も今一つ盛り上がらない。	
悪くなっている	その他レジャー施設 (経営者)	来客数の動き	・11月は今年一番の売上減少である。高齢者の客足も減少したが、年末にもかかわらず現役世代の客が少なく、お金の使い方も渋い。		
	-	-	-	-	
	-	-	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	-	-	
	やや良くなっている	建設業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・受注量は増加気味である。	
		その他サービス業〔造園・園芸〕 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・クリスマス等、年末に向けイベント事が多く、受注量が増加している。	
	変わらない	新聞業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・企業の業績は堅調に推移しているように見受けられるが、それが広告出稿需要に結び付いていない。冬のボーナス商戦に関連する広告も伸び悩んでおり、新聞広告収入は前年割れが続いている。	
		出版業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・雑誌広告の本数、ページ単価共に前年同期より減少している。	
		印刷業・製本業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・年末の動きとしては良くないが、年度末の物件が少し動き出しているため、トータルでは変化はない。	
印刷業・製本業 (経営者)	受注価格や販売価格の動き	・価格の見直しなど経費等のチェックが厳しくなっている。			

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		印刷業・製本業 (営業担当)	取引先の様子	・西日本の同業者の安値受注により、この秋ごろから首都圏の仕事が中国、四国、九州地方に流れているようである。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・米国の次期大統領の1月以降の動きを様子見している。
		卸売業〔機械器具〕(経営者)	取引先の様子	・年末だが、今までと変わりはない。
		卸売業〔機械器具〕(営業担当)	取引先の様子	・新規取引が少しあるが、なくなった仕事もあり、概ね変化はない。
		その他サービス業〔ビルメンテナンス〕(営業担当)	受注量や販売量の動き	・人手不足による発注依頼量は多く、特にホテルのベッドメイク業務は活発化しているが、受注段階でコスト面の折り合いがつかず、成約に結び付かない。
やや悪くなっている		出版業(経営者)	それ以外	・消費意欲おう盛な層と節約志向に二極化しており、経済格差の表れといえる。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・消費税8%への増税や社会保険料の値上げが徐々に響いてきている。
悪くなっている		○	○	○

#### 4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店〔文具〕 (販売担当) 通信会社(営業担当)	・1月の米国の次期大統領就任までは現在の株高、円安が続 き良くなるが、その後どうなるか不透明である。 ・年度末の駆け込み需要が期待できる。
	変わらない	一般小売店〔靴〕(店 長)	・株価は上がっているが、米国と韓国の政情が不透明なた め、経済に与える影響が不安である。
		一般小売店〔食品〕 (店長)	・最近の株式市場の好転に付随して、景気もやや明るくなる のではないかと。
		百貨店(総務担当)	・高価格帯商品の動きが相変わらず振るわない。
		百貨店(総務担当)	・インバウンド需要などにより、化粧品を中心に好調に推移 しているものの、全体的な景気は明るい見通しに至っていない。
		百貨店(業務推進担 当)	・ボーナスの出るこの時期ですら来客数は増えず、また、 ボーナスが出たからといって購買意欲がない。そのため、良 くなるとは考えられない。
		百貨店(広報担当)	・国内外の景気動向の先行き不透明感、米国や中国の経済動 向や国内の株価が安定してくれば、長い目で上向く可能性は ある。
		スーパー(店長)	・必要な物を必要な数だけという傾向が続く。11~12月上旬 のお歳暮商戦は前年比で70%台である。
		コンビニ(店長)	・依然として厳しい売上状況ではあるが、ここ数か月は更なる 落ち込みもなく、低位安定というところである。今後も不 安感はあるものの、現状のまま変わらない。
		高級レストラン(経営 者)	・外国人を伴う法人系の来客が激増している。個人の利用客 は高級志向と価格重視の差が顕著に現れてきている。
		一般レストラン(経営 者)	・忘年会、新年会の予約は減っているが、3か月前より今月 のほうが良い。先行きは変わらない。
		一般レストラン(経営 者)	・観光客が多く、現在の商店街の姿を見に来る客も少なく ない。商品を買うことを目的に来ている客が少ないため、景気 の先行きは良くなると思えない。
		旅行代理店(支店長)	・2~3か月先に景気好転の要素は見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・政府等により全体的な景気の底上げが行われない限り、現 状から良くならず、逆に悪くなる。
	競馬場(職員)	・来場者数に伸びが見られない。	
	設計事務所(所長)	・このところ物件数も低調であり、今後の状況が分からな い。	
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・年金法の改正などにより、労働者の購入意欲にも影を落と すのではないかと。
		スーパー(店長)	・インバウンド需要が減少してきており、外国人観光客自体 も以前のような爆買いはしない。観光地全体として考えてい かなければならない。
		衣料品専門店(店長)	・現在、需要のピークを迎えており、最盛期は初売りであ る。今期はどこもバーゲンの立ち上がりがあるので、2月は 非常に厳しいと見ている。
高級レストラン(副店 長)		・1月の予約状況は前年より良くない。今後を期待してい る。	
都市型ホテル(経営 者)		・米国はじめ世界情勢が混とんとしており、先が読めない。 アベノミクスも十分な成果を出していない。	
その他レジャー施設 (経営者)		・例年なら年末年始客でにぎわうのだが、ここ数年普段と変 わりない。今後も期待できず、また、客の会話の中でも景気 はあまり良くない。	
悪くなる		-	-
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔機械器具〕 (営業担当)	・年度末に向け受注件数、数量が増えてくる見込みである。
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業 担当)	・年度末の需要で少し伸びてくるのではないかと。
		印刷業・製本業(営業 担当)	・例年、年明けから年度末にかけて仕事量が増えるので、期 待したい。
		不動産業(企画担当)	・株高によりマインドが高揚する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
変わらない		新聞業（営業担当）	・米国の次期大統領の経済政策がまだ不透明なこともあり、輸出産業を中心にその影響予測が難しい。急激な円高株安不安は薄らいだが、企業心理はなお慎重である。
		出版業（営業担当）	・新年度分の受注時期になるが、得意先からは明るい話がない。景気が不透明なため、各クライアントも広告出稿を渋っている。
		印刷業・製本業（経営者）	・好材料が見当たらない。
		建設業（経営者）	・米国の次期大統領次第で日本は左右されるため、分からないというほうが的確である。日本は何とかなるという期待値が大きすぎる。危機感をもって事に当たっていく必要がある。
		建設業（営業担当）	・受注量が伸びていない。
		建設業（営業担当）	・現状維持で変化はない。
		輸送業（従業員）	・受注量、問い合わせ等、仕事の増加に関する動きに変化がない。
		通信業（営業担当）	・良い要因、悪い要因共に見当たらない。
		通信業（営業担当）	・取引先で耳にするのは、変わらないではなく、先が見えないとのコメントが多い。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・米国大統領選に絡んだ為替相場の変動により、救われた業種とそうでない業種がまだ模様になっている。ただし、共通しているのは、政権交代以降の実勢が極めて読みにくく、企業側は、結果として当面保守的な予算を組まざるを得ない状況にある。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・現状から良くなっていく理由を見つけることができない。
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・築地場外市場はもはや飽和状態である。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・受注量はほぼ計画通りに推移しているが、労務量の増加がコストを押し上げており、利益面がついてこない。この状況は当分続く。
その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・人手不足とそれに伴う人件費の増加が収益を圧迫する。大手企業との収益差が続く状況である。		
やや悪くなる		出版業（経営者）	・アベノミクスの経済政策の失敗が露呈しつつある。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・米国の利上げを織り込んだマーケットが1月以降も継続するかどうか不透明である。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・工場側の話によると、年度末の受注量はあまり望めない。
		経営コンサルタント	・先行き不安のため、まだ消費につながりにくく、景気の伸び悩みが続く。
悪くなる		その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・11～12月が最繁忙期のため、2～3か月後は売上が下がると見込んでいる。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	13
	商店街・一般小売店	4
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	4
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	1
	設計事務所所長・職員	1
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	6
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	6
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	3
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	19
	建設業	3
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0